

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

作成：R3.2.15

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護美沢	管理者	川上喜代子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	3人	13人	人	24人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>① 年度初めには各活動や行事、係等の計画を詳細に作成し、提示、全職員へ周知し、取り組む。</p> <p>② ミーティングがケアの質向上に繋がるよう「ケアの根拠」を意識して話し合い、共有する。</p>	<p>・年間計画・係分担を明確にし、全職員に周知し、取り組む事ができたが、コロナ禍の影響で制限された面が多々あった。</p> <p>・ミーティング時、「ケアの根拠」を意識して話し合い、ケアの質の向上に繋がった。</p>	<p>・事業所の自己評価等を拝見する限りでは、一人ひとり改善計画に向かいケアしている事がわかる。</p> <p>・身体拘束について、ミトンを外せる環境をセンターと情報を共有する中で、拘束解除に繋げることができた（ご家族代表）</p> <p>・情報シートの導入、拘束解除への取り組み等、チームとして積極的にコミュニケーションが取れていることが良くわかる。</p> <p>・地域密着型の特徴である地域との関わりについては、コロナ禍の状況ではあるが感染予防を行い出来る事を工夫して今後も地域との関りを継続して頂きたい。</p>	<p>①事業所自己評価についての学習会を全スタッフが参加できるように計画的に実施し、さらに理解を深める。</p> <p>②ミーティング時に改善計画（特に、ケアに対しての疑問は後まわしにせず、タブレットによる記録や情報共有をタイムリーに行う）に対する実施状況を確認し、ケアの質の向上に繋げる。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>① 美化係を中心に計画を立て、四季の変化が感じられるような飾りつけや外回りの環境美化を継続出来るよう行っていく。</p> <p>② 立てた計画を担当が周知、提示し更に活動の記録を残す。 (利用者様にとっての思い出及び職員の振り返りとしての記録)</p>	<p>・利用者様と一緒に玄関付近の飾りつけや、習字の掲示・アルバム作成等を実施し、四季の変化を感じて頂いた。</p> <p>・外回りの環境整備が不十分であった。</p>	<p>・今年度、コロナ感染予防の為、事業所内での開催が出来なかった為、センター紹介の動画を観た事である程度、施設の中の様子を確認する事ができた。</p> <p>・四季折々の飾りや習字等利用者様と一緒に取り組まれていた。</p> <p>・季節ごとに利用者様と写真を撮りアルバムを作成し、それを見て</p>	<p>①年間を通して感染症予防対策を徹底して行う。</p> <p>②引き続き、計画的に利用者様と一緒に四季折々の飾りつけやアルバムを作成し、重点課題として、花壇の有効活用・外からご家族が面会しやすい様に外回りの環境を整える。</p>

			利用者様とスタッフで楽しまれていたようだ。 ・町内のクリーン作戦でセンター回りも除草して頂いた。 ・感染症対策がしっかりと実施されているか気になる。	
C. 事業所と地域のかかわり	① 広報配布の範囲を広げ周知を行う。(美沢1~4、学校町2) サポートセンターとしての役割を広報内容として追加していく。 ② 行事、イベント時にはポスターを配布し地域との継続した関りを行う。	・広報紙の配布範囲を広げ、事業所の役割をわかりやすく掲載した。 ・コロナ禍の影響で予定していた行事が実施出来なかった。	・四郎丸地区への防災訓練の参加、秋のクリーン作戦(春は中止)への参加してもらった。今後も出来る事を地域と一緒に参加をお願いしたい。 ・地域包括ケアセンターと連携を図りながら、小規模と情報の共有をさせて頂いている。サポートセンター美沢の広報紙を活用させて頂き、更なる連携を強めたい。	①広報紙の内容を見直し、事業所に相談しやすくなる様又、興味を持って頂く様、地域にまつわる事や時節の有益な情報を掲載する。 ②事業所近隣地域の清掃活動を自主的に行う。(ゴミ拾い、落葉清掃等)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	① 年間計画を立て事前に外出先の情報を確認し安全等に配慮する。お花見等、地域への外出を定期的に行い地域交流に深める。 ② 計画以外でも外出出来る際は柔軟に対応していく。	・コロナ禍の影響で計画していた外出の行事が実施出来ず、思うように地域交流が図れなかった。 ・送迎時、桜のスポットなど通り車の中からでも楽しめるように工夫した。	・コロナ禍の中で、地域に出ていく機会が大幅に減少する中で、個別ケアの強化を行い、「その人らしさ」のケアを実施した。 ・コロナ禍ではあるが、地域に出て行く方向性は崩さずに出来る事を提供することで、お互いが支え合う関係作りを築く。	①感染症予防対策を徹底しつつ、係を中心に計画を立てて、お花見等、地域への外出を定期的に行い、地域交流を深める。 ②計画以外でも、個別ケアの強化のため外出の機会を増やす。
E. 運営推進会議を活かした取組み	① 引き続き様々なスタッフが運営推進会議に参加し、その役割や地域との関わり、課題について学ぶ。 ② 報告会のみとならず、会議毎にテーマを決めて会議を開催し、テーマの中に地域との関わりについても取り入れていく。	・コロナ禍の影響で運営推進会議回数も少なく、スタッフの参加も制限された。 ・内容がマンネリ化しないように毎回テーマ変えて実施した。	・運営推進会議への参加スタッフが限られてしまい、全員が参加する事が難しい。 →今年度は特にセンター外での開催場所であり、参加スタッフが限られてしまった。参加できなかったスタッフには、会議の内容を議事録にて伝達を行い周知させて頂いているが、少しでも多くの職員が参加する事で地域での取り組み、意見等を改善に繋げたい。	①なるべく多くのスタッフが運営推進会議に参加出来るように計画し、地域との関りを学び、理解を深める。参加できないスタッフからも地域に関する意見や疑問点等を事前聞き会議に反映させる。 ②地域における課題・困りごと等を共有・検討して改善に繋げる。 ③相互に有益なものとなる様にテーマを工夫する。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>① 事業所の特性を踏まえた防災訓練を実施して地域の方々にも参加して頂けるよう呼び掛け相互連携を図る。 ② 防災訓練後、広報を活用しセンターとしての役割を周知していく。 ③ 緊急時、福祉避難所としてなった場合のスタッフの行動を明確化させる。</p>	<p>・消防署の方に来所して頂き有意義な防災訓練が出来た。 ・事業所で実施した訓練を撮影して運営推進会議の際観て頂き、訓練内容を理解して頂いた。 ・コロナ禍の影響で地域の方々には参加して頂けなかった。 ・福祉避難所としてのスタッフ行動の明確化までに至らなかった。</p>	<p>・コロナ禍の為、今年度は地域の方々を呼んで防災訓練を実施する事は出来なかったが、スタッフのみの防災訓練の動画を観ることで訓練のイメージをする事ができた。 ・防災訓練の様子(動画)を観て、安心して家族を預ける事ができると感じた。 ・事業所が災害時の拠点として、どう機能できるか(できない部分はどうしたら補う事ができるか)が今後の課題</p>	<p>①感染症予防対策を実施しつつ、防災計画に準じて防災訓練を行い、地域の方々にも参加して頂く。 ②災害時事業所が福祉避難所として機能できるように、学習会を実施しスタッフの対応を明確にする。</p>
----------------------------	--	---	--	---